



題字揮毫 千家達彦 (元いなさ会最高顧問)

写真提供 板垣 宏 (写真家・高校7期) 表紙写真: 昭和63年(1988年)当時の大社駅

第34号

ああ大社駅・・・

副会長 金 築 孝 (高校十九期)



事務局から「大社駅」というテーマで会報誌巻頭言を書けと命じられた。気楽に引き受けたが、いざ書き始めてみるとなかなか書けない。思いつくことが少ないのだ。大体、大社線が廃止になったのはいつだろう？

調べてみると一九九〇年三月三十一日である。この日夜、この大社駅から最後の列車が発出したそう。

午後九時四十四分、「いつものように警告ベルが鳴り、発車の笛とブザーが鳴った」「やがて『次は、あらかや・・・』と最後の放送が流れ、列車は動き出した」(『大社町そぞろ歩き』小豆澤禮 画・村上清子 文)。

思い出した。確かにそうだった。「次は、あらかや・・・」というアナウンスがかつてあった。耳によみがえって来る。この最後の放送があつてから三十年以上の歳月が過ぎたのか。

大社駅・・・希薄になった記憶をたどれば、ある風景が決まって脳裏に浮かぶ。

朝だったろうか、まだ薄暗い駅の広場である。多くの人が集まっている。集まっているのは保護者の皆さんだろう。小学六年生の我々が修学旅行に出かけるのを見送りに来てくださったのだ。見送りの人たちの中にあつた父の姿を思い出す。

もう一つ、これは中学三年生の時か。友達を見送っている自分が見える。この光景も薄暗い。私が見ているのは、就職のために出発する友達であらう。学生服を着て、中学校の制帽をかぶっているようだ。当時の進学率は六割くらい。多くの親しい友達が遠くへ働きに行った。最後に誰になんと言ったか覚えていない。何かと混同しているような気もするが、だが妙に心に残っている。

みんなぼんやりと薄暗いのは、私の記憶そのものだ。大社の駅は遙か遠くなくなってしまったが、駅舎は整備され、残っている。昔を振り返るよすがとしても、ずっと輝いていてほしいものだ。

大社駅と神門通りの発展



公益財団法人いづも財団 事務局長

山崎 裕二氏 (高校十九期)

大社駅と停車場道

大社駅は、出雲大社の玄関口の駅として明治四十五（一九一三）年に仮駅舎が建設され営業を始めた。駅舎の建設場所を巡っては、市場通りと馬場通りとの間で激しい誘致合戦が繰り広げられた結果、双方からみて等距離に相当する現在地に建設された。

早速営業が始まったが、駅を降りた乗客からの評判は決して芳しいものではなかった。それは、勢溜までの参詣道が市場通りを進む経路と馬場通りを進む経路の二つがあり、迷いやすいことに加えて、どちらを通っても狭い悪路を二km～二・五kmも歩かねばならなかったからである。

このような状況をみた当時の島根県知事の高岡直吉（津和野出身）は、初めての島根県出身の知事ということもあり、参詣道の建設への思い入れは一方ならぬものがあつた。

彼が考えたのは、勢溜から大社駅までを

直線道で結び、道幅も六間（約一一m）とし、これを県費で建設するというものであつた。当時の国道ですら四間に満たないものが多かったから、六間道路というのは、目を見張るべき道路であつたことになる。なおこの時、高岡知事は参詣道建設の意義に関して、県会で「大社八島根県ノ大社テナクシテ、天下ノ大社テアル、即チ日本国ノ大社テアリマス」とする大演説を行っていた。これに異を唱える議員はほとんどいなかったと伝えられているから相当迫力ある演説だったのであろう。ちなみに、神門通りは短い区間であるが、今日でも「県道」である。

そして、高岡知事は堀川には宇迦橋を設け、その北端から勢溜までを神域の延長とした。大正四（一九一五）年には、篤志家の小林徳一郎により神域の入り口に高さ二・三mのコンクリート製の大鳥居が建設され、道路の両側には参道の延長として二八〇本の松が植えられた。これが現存する松並木である。

ちなみに、「宇迦橋」と命名したのも高岡知事である。彼は『古事記』の一節に「宇迦山の麓に宮殿（出雲大社）を建てた」とあることに着目し、新たに建設した橋を「宇迦山（八雲山）の麓に鎮座する出雲大社の参詣道に架かる橋」という意味を込めて、このように命名したのである。

勢溜から宇迦橋に至る直線道のことを今

日では「神門通り」と呼んでいるが、当初の呼び名は「停車場道」であつた。これは、大正五・六年頃に作成された「出雲大社案内図」にそのようになっていることから間違ひなからう。千家尊福公が命名したとされる「神門通り」という呼び名が広まるのは、もう少し後のことということになる。

このように「停車場道（神門通り）」の外形は整えられていったが、道路沿いにはまだ店舗や旅館はほとんど存在しなかった。これは、業者の進出が少し遅れたためである。

※開通直後の「停車場道（神門通り）」
勢溜に向かう人力車の一行。道路沿いに店



※開通直後の「停車場道（神門通り）」

舗や旅館はまだない。現在の「一畑電鉄出雲大社前駅」付近から撮影したと思われる。（『写真は語る大社の百年』より）

「停車場道」から「神門通り」へ

「停車場道」が「神門通り」と呼ばれるようになるのは、大正十三（一九二四）年に新大社駅舎（二代目）が建設されてからのことと思われる。

というのは、新大社駅舎の建設により大社駅の乗降客が激増し、参詣客を当て込んだ業者がこの通りに進出したからである。おそらく、この頃から「停車場道」は「神門通り」と呼ばれるようになったのではない

いかと思われる。

昭和五（一九三〇）年になると、一畑電鉄大社神門駅が開業する。駅名がすでに「大社神門駅」と呼ばれていることから、「神門通り」の呼称は昭和五年までには定着していたと思われる。「大社駅」と「大社神門駅」という二つの駅の乗降客数に刺激されて、市場通りや馬場通りの業者たちの進出も相次ぎ、「神門通り」は、大社最大の繁華街へと成長していくことになるのである。

【略年表】

明治四五年 大社駅（仮駅舎）の開業

大正二年 停車場道（神門通り）の建設が

小づちや：土産品店 岩谷食堂 小村まんぢう店 金田食堂 竹野屋支店：土産品店 坂口屋旅館	さかや：土産品店 大社物産館 龍谷食堂 坂根屋酒店 せのお呉服店	飯島旅館 大黒屋旅館 えびすや旅館
竹野屋旅館 荒木旅館 西小川屋旅館 板垣花屋 とらや旅館 藤原旅館 石部薬局 松屋旅館 出雲物産展：土産品店	かたよせ土産品店 吉川書店 米井：土産品店 丸三：土産品店 日の出館 島根屋時計店 板垣邸 玉盛堂：パン屋	
山本洋服店 食堂やまだ 草谷化粧品店 森山みやげ店 パチンコプラザ	北井アイスクリーム店 岩井呉服店 加藤旅館	大社劇場
金山電気店 富士屋分店（金物） 堀江薬局 吉廻商店 長岡呉服店 和田屋みやげ店	東伯館写真館 島根屋時計店 山根旅館 伊藤食堂（そば） はまや土産品店	
大 広 場	岡本商店 てしま旅館（大島屋支店） 一畑電鉄大社神門駅	
旅館大和屋 旅館ふじや 福島みやげ店 福代食堂 梶谷食堂 泉屋旅館 若槻屋物店 若木屋菓子店 岩谷時計店 辺倉おもちゃ店 松原おもちゃ店 中国電工 柳野（大工） 岡山自転車店 森山たばこ店 加善旅館 林 栄三郎	本間旅館 星の屋（仕出し） 一畑電鉄寮 大社警察署 大社消防署 小田川商店 山本歯科 野菜市場（山本敏夫） 川上魚屋 手銭セメント店 日本石油大社給油所	

昭和30年代の神門通りの店

始まる

大正三年 宇迦橋が架けられる

大正四年 宇迦橋の大鳥居が建設される

松並木が寄進される

※この頃「出雲大社案内図」が作成される

大正十三年 大社駅新駅舎が完成

昭和五年 一畑電鉄大社神門駅が開業

神門通りが繁栄した頃

「神門通り」が最も繁栄したのは、昭和三十年代から四十年代にかけての約二〇年間である。一年間の参詣客数は、三五〇万人から四〇〇万人くらいだったといわれている。では、どうして、出雲大社の参詣客がこれほど増えたのであろうか。

その理由としては、この時期はわが国の高度経済成長期に該当し、多くの国民が寺社や名所旧跡に観光に出かけるようになったことである。これに加えて、昭和二十八（一九五三）年から始まった出雲大社の「昭和の遷宮」が耳目を集め、人々の足を出雲大社に向かわせたからと考えられている。

上図は、昭和三十年代の神門通りの店舗や旅館、公共機関を示したものである。年配の方には、なつかしい店や旅館も多からう。

松江で活躍する

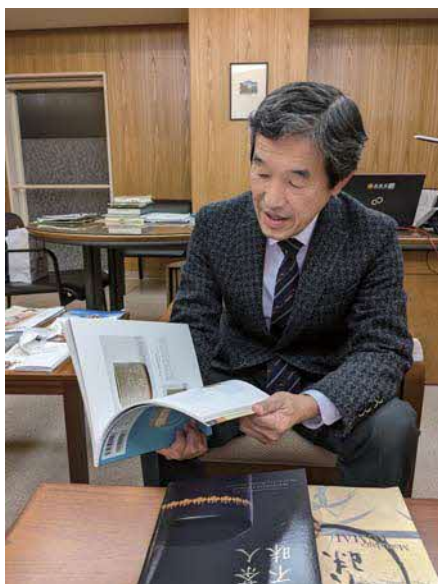
大杜高校OB訪問記①

島根県立美術館館長

藤間 寛氏
とうま ひろし

(高校二十四期)

茶処として知られる松江市では二〇一八年から「不昧公二百年祭」として様々な記念事業を行ってきましたが、その中で出版された不昧公にまつわる書籍の執筆者、監修者として何度も名前が登場するのが藤間寛さん(二十四期)です。記者の私とは大杜幼稚園時代からの幼なじみですが、令和四年七月より島根県出身者としては初めての島根県立美術館の館長に就任されました。



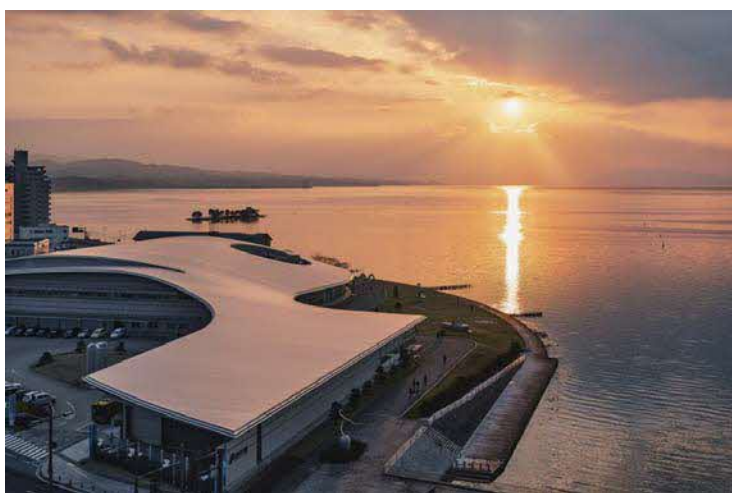
藤間さんは学芸員として、東京の板橋区立美術館、島根県立美術館、島根県立石見美術館(グラントワ)と実に3館もの立ち上げに関わってこられた経験があり、各館で運営に手腕を振るって来られました。

新館長としてなにか新たな展示企画があるのかと聞けば、昔と変わらない穏やかな口調で「いや、すでにそれぞれの部門でスタッフが進めているものがあり、館長がその中に入っていくわけではありません」とのこと。「でも実現したいのは美術館にもっと若い人たちに足を運んでもらいたいことで、そこで新しい発見や感動を得てほしい。来館者が一度だけでなく何度でも訪れてくれるような、そんな空間を作ってほしい。不昧公が時世の移りゆきをわきまえるようにと茶の心得を語られているように、美術館もそうありたいと思っています」と語られました。うーん、素晴らしいです！「ところで、この松江に来てくれる外国人はどこの国が一番多いか知ってる？」と逆に質問されて、「台湾か中国じゃないの」と答えると、これがフランスなんだそうです。これには驚きました。ちょうど県立美術館では葛飾北斎展を開催していますが(三月二十六日で終了)、時代別の展示は今後数年間続くのだそうです。北斎の水を画材とした絵画がフランス印象派に大きな影響を与えたことから、北斎ファンの多いフ

ランスなどヨーロッパからの観光客を呼び寄せていきたいと夢を語る姿は、いやはや立派な館長さんです。

気がつけば三時間も話していて、そのうちの半分が懐かしい幼友達との昔話だったかも知れません。ちょっと縁遠かった県立美術館でしたけど、年間パスポート会員になって何度でも行こうという気になりましたよ。松江いなさ会の会員の皆さんも一緒に！

(文責 今岡)



松江で活躍する

大社高校OB訪問記②

島根県環境生活部スポーツ振興監

なかざわ のぶよし
中澤 信善氏

(高校三十四期)

県庁いなさ会の会長をなさっている中澤信善さんを訪ねてきました。大社町宇龍の福性寺のご住職の息子さんですが、小さい頃からお経を上手に唱える少年だったと聞いています。

ちなみに福性寺といえば、明治時代初めに起こった萩の乱の首謀者前原一誠の一行の捕縛に関与した寺で、一誠らの残した辞世の句や漢詩、遺品を大切に保管されていた寺院です。これらのものは現在、古代出雲歴史博物館に保管されています。

「日御碕小学校の頃は剣道部でしたが、そこでは宍道正年先生（高校十八期）にずいぶん指導していただきました」とのこと。なるほどそれでスポーツ振興を今もやってらっしゃるのかと思えば、いやいや中学校からはずっと文化系だったようです。

早稲田大学を出られてからすぐ県庁に入り、隠岐支庁水産部を皮切りに出雲児童相談所勤務の後は、総務省自治大学校で国際

交流専門課程を学び、国際関係の部署に異動、韓国は慶尚北道庁（大邱（テグ）市）に2年間単身赴任して韓国語をマスターしたとのこと。商工労働部で県内の商工団体との交流を重ねたと思えば、再び国際センターを担当したのち、島根県立大学の法人化を担当、その後も教育委員会や観光などさまざまな部署を経て島根県立大学の事務局長、そして今度は企業局で水力発電や風力発電を担当し（まだまだ続く）・・・いやはや専門職ではなく総合職を育てる県職員の仕事まっしぐらの経験を積んでこられました。

そんな中澤さんが満を持して担当しているのが七年後に迫った二〇三〇年（令和十二年）に島根県で開催が予定されている第八十四回国民スポーツ大会・第二十九回全国障がい者スポーツ大会の準備です。四十年前のくまびき国体を覚えている方も多いことでしょう。島根県ではじめて迎える国体でしたから、県内各地に競技会場となるスポーツ施設の建設が進められました。大社高校に一九七三年（昭和四十八年）に新設された体育科もそれを見据えたものだったと思います。今回の愛称は「島根かみあり国スポ・全スポ」、大会スローガンは「自分を超えろ、神話をつくれ」です。ロゴマークも決まり、国スポは、県内各地での開催種目もほぼ固まったようです。全国からス

ポーツを楽しむ皆さんが集まって来ます。島根県のアスリートたちの奮闘を期待したいところです。

四十年前の国体の頃はまだ島根県の人口も上向きだった頃ですが、残念ながらいまは違います。かけられる予算もそんなに多くないそうですけど、この国スポ・全スポ成功に向けて全力投入です！そう強く語られる中澤さんがなんだか県職員の鑑のように思いながら取材を終えました。がんばってください、大社高校同窓会の皆もきっとそれぞれのところで「島根かみあり国スポ・全スポ」を応援していきますからね。

（文責 今岡）



母校だより

大社高校 剣道部

大社高校剣道部は、三月二十四日から二十八日まで、愛知県の春日井市総合体育館で行われた第三十二回全国高等学校剣道選抜大会に出場し、次の成績を収めました。エントリしたの男女各六十四校でした。

男子団体 ベスト8

女子団体 ベスト16

優秀選手 波多野準也

(優秀選手に選ばれたのは十名)

大社高校ホームページ剣道部には「男子は過去最高成績に並ぶベスト8、女子も二日目に残るベスト16。よく頑張りましたが、目標には届かず。もっと頑張ります!!」という感想が載っていました。この向上心、応援しています。

そういえば、同じページの部活紹介には「剣道面では個人の課題にそれぞれ自分なりに工夫して取り組み、どうしたら自分の理想に近づけるか常に思考を働かせています。また自分では気づけないことを、仲間と指摘し合い、コミュニケーション能力を高め、チーム力の向上を図っています。」と述べられています。なるほど!!目標は日本一、目的は人間形成だとか。素晴らしい!!

(文責 今岡)

大社高等学校生徒数

各学年 普通科5クラス

体育科1クラス

全校生徒数 687名

(令和5年4月1日 現在)



(剣道部 選抜女子)



(剣道部 選抜男子)

表紙に寄せて

板垣 宏 (高校七期)

旧大社駅は国指定重要文化財で和風駅舎の最高傑作と言われています。

老朽化や地盤沈下などの問題があり、現在、令和七年十二月までの予定で保存修理工事が行われています。

修学旅行や進学など思い出が沢山の神社の写真の中に昭和六十三年全国高校サッカー大会の垂れ幕がかかった一枚がありました。大社高校頑張れ!と町中の人たちの応援も聞こえてくるような写真です。

1. 進学状況 (合格延べ数・過年度卒業生を含む)

		令和2年度	3年度	4年度
大学	国公立	71	74	68
	私立	230	223	228
短大	公立	24	13	18
	私立	12	12	6
高専		23	21	14
合計		360	343	334

2. 就職状況

		令和2年度	3年度	4年度
公務員		5	7	14
民間事業所		9	4	8
合計		14	11	22

会 務 報 告

事務局長 糸賀耕一（高校十九期）

令和四年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。

令和四年度第三十四回総会は、サンラポーむらくもにて、錦秋の十月二十九日に行なうはずが叶わず、役員会で協議の結果、安全を第一に考慮してやむなく中止という苦渋の決定をしました。

なお、総会中止のお知らせに記しましたが、総会で審議予定だった前年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・予算案審議は、役員会での承認を以て総会での承認とさせていただきます。御承知おき下さい。

令和四年度の事業

- ▼令和四年度五月五日 会計監査
- ▼令和四年度八月二十三日 正副会長・事務局長会
- ▼令和四年度八月二十七日 第一回役員会
- 前年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・予算案 承認。
- ▼令和四年度九月二十一日 総会中止のお知らせ、会費納入お願い、会報三十三号を発送。
- ▼令和四年度十二月十日 会報三十四号編集委員会同日 開催予定だった第二回役員会は、新型コロナウイルス感染症終息が見込めないため中止。
- ▼令和五年度三月四日 第二回役員会 会計中間報告。
- 令和五年度総会、役員改選について協議。
- 同日 会報三十四号編集委員会

令和 4 年度松江いなさ会決算書

収入総額	499,301 円
支出総額	187,078 円
差引金額	312,223 円

1. 収入の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
会 費	200,000	156,000	▲44,000	@2,000×78 名
寄 付 金	60,000	50,000	▲10,000	いなさ会
雑 収 入	701	2	▲699	普通預金利息
繰 越 金	293,299	293,299	0	
合 計	554,000	499,301	▲54,699	

2. 支出の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
会 議 費	30,000	20,013	▲9,987	役員会、役員会会場費等
事 務 費	40,000	30,604	▲9,396	通信費、事務用品、消耗品等
事 業 費	350,000	125,862	▲224,138	会報発行費、取材費、総会中止連絡・会費納入願い郵券等
慶 弔 費	20,000	0	▲20,000	
雑 費	30,000	10,599	▲19,401	振込手数料等
予 備 費	84,000	0	▲84,000	
合 計	554,000	187,078	▲366,922	

基金積立金現在額 200,000円

令和 5 年度松江いなさ会予算(案)

1. 収入の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増 減	摘 要
会 費	200,000	200,000	0	@2,000×100名
寄 付 金	60,000	60,000	0	
雑 収 入	701	777	76	預金利息等
繰 越 金	293,299	312,223	18,924	
合 計	554,000	573,000	19,000	

2. 支出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増 減	摘 要
会 議 費	30,000	30,000	0	幹事会、役員会、事務局費等
事 務 費	40,000	40,000	0	通信費、事務用品、消耗品等
事 業 費	350,000	350,000	0	総会、会報発行費等
慶 弔 費	20,000	20,000	0	
雑 費	30,000	30,000	0	振込手数料等
予 備 費	84,000	103,000	19,000	
合 計	554,000	573,000	19,000	

基金積立金現在額 200,000円

今年度の総会 御案内

日時 六月十七日(土)

総会 午後一時から。

記念講演 午後二時から。

懇親会 午後三時から。

懇親会会費 五千元。

会場 サンプラポーむらくも(松江市殿町)
記念講演 講師と演題

梶谷 光弘氏

「華岡青洲の真実」

講師紹介

一九五二年 大社町生まれ。

一九七五年 島根大学教育学部卒業。

二〇一三年三月まで 公立小中学校、島根大学教育学部附属中学校、島根県教育庁勤務。

その後、兵庫教育大学大学院修了。

その後、島根大学特任教授、公益財団法人

いづも財団事務局次長を歴任。

著書

『華岡流医術の世界』『松江藩校の変遷と役割』

『西洋医学受容から衛生思想普及までの道のり』

『漢学と医学』など多数。

講師からのコメント

「江戸時代の医者」と言えば、多くの人が「華岡青洲」の名前を挙げるでしょう。その理由は、有吉佐和子が昭和四一(一九六六)年に発表した小説『華岡青洲の妻』の影響です。これにより、

それまでは一部の研究者しか知らなかった彼は、一般の人にも知られるようになりました。同時に、そこに描かれた内容はすべて真実として受け取られました。

しかし、この小説には有吉佐和子が考えた創作(フィクション)が随所に散りばめられています。その最たるものは、彼が世界で初めて全身麻酔薬を使って乳がん腫瘍摘出手術に成功したのは文化二(一八〇五)年十月十三日ではなく、一年前の文化元年だったことです。以下は講演でお話させていただきます。

華岡家の門人 大森加善

華岡家で習得した麻酔法により外科・乳がん手術を執刀した門人に大森加善がいます。

顕彰碑が安来市大塚町に建立されていて、「大森泰輔・加善・六四郎は華岡家にて麻沸散を用いた最新の医術を学び、ここで治療を行い多くの人命を救った。又、医塾『奇正軒』を開き、多くの医生も養成した」とあります。

大森加善(1812~81)は、義父の大森泰輔のもとで修業を行った後、華岡流外科を教授する塾で大坂中之島にあった合水堂(がっすいどう)に入門します。青洲没後は、後継者の華岡鼎(はなおかかみ)から塾頭に命じられ、多くの手術を執刀しました。その後、帰国し、大塚村で開業します。

文久三(1863)年、加善は乳がん手術を執刀しますが、この時、患者に対して手術方法と医師の役割、麻酔薬の威力などを詳しく説明しています。彼の姿勢は、インフォームド・コンセントの先駆けをなすものとして今も多くの医学者から注目されています。

参考文献

田野俊平・梶谷光弘 著『西洋医学受容から衛生思想普及までの道のり』二〇二〇年 松江市史料編纂課 発行

梶谷光弘 著『華岡流医術の世界 華岡青洲とその門人たちの軌跡』二〇〇八年 島根大学附属図書館医学分館大森文庫出版編集委員会 発行

皆様へお願い

松江いなさ会は、皆様からお納めいただく会費で運営しており、御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

結成から四十年近く、松江いなさ会の絆をさらに発展させて行きたいと思っております。

つきましては、年会費は二〇〇〇円、納入期限は一応、十二月末日でございます。

昨今、諸経費の高騰もあり、会計事情は極めて厳しくなっています。事情ご賢察の上、一人でも多くの方からの会費納入を何卒宜しくお願い致します。

編集後記

それにしても今年のWBC侍ジャパンの活躍には日本中が興奮しましたね。長かったコロナ禍のうっぶんを一気に晴らしてもらった気がします。さあ今年こそ我々が母校も大声で応援したいものです。後輩の皆さん頑張ってください！

今岡克己(高校二十四期)